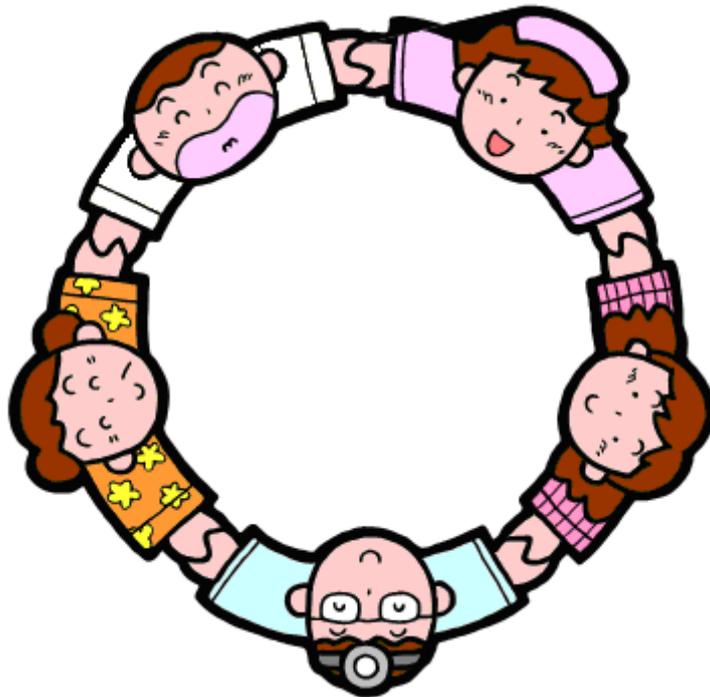


AP 療法の手引き

(ドキシルビシン・シスプラチン)



2017年7月版

国立がん研究センター中央病院
骨軟部腫瘍科 薬剤部 看護部

はじめに

骨腫瘍の進行を抑えるために、全身治療としてさまざまな抗がん剤が用いられますが、ドキソルビシン（別名：アドリアシン）/シスプラチン療法（以下 AP 療法）は作用の異なる 2 種類の抗がん剤を組み合わせる治療のひとつです。

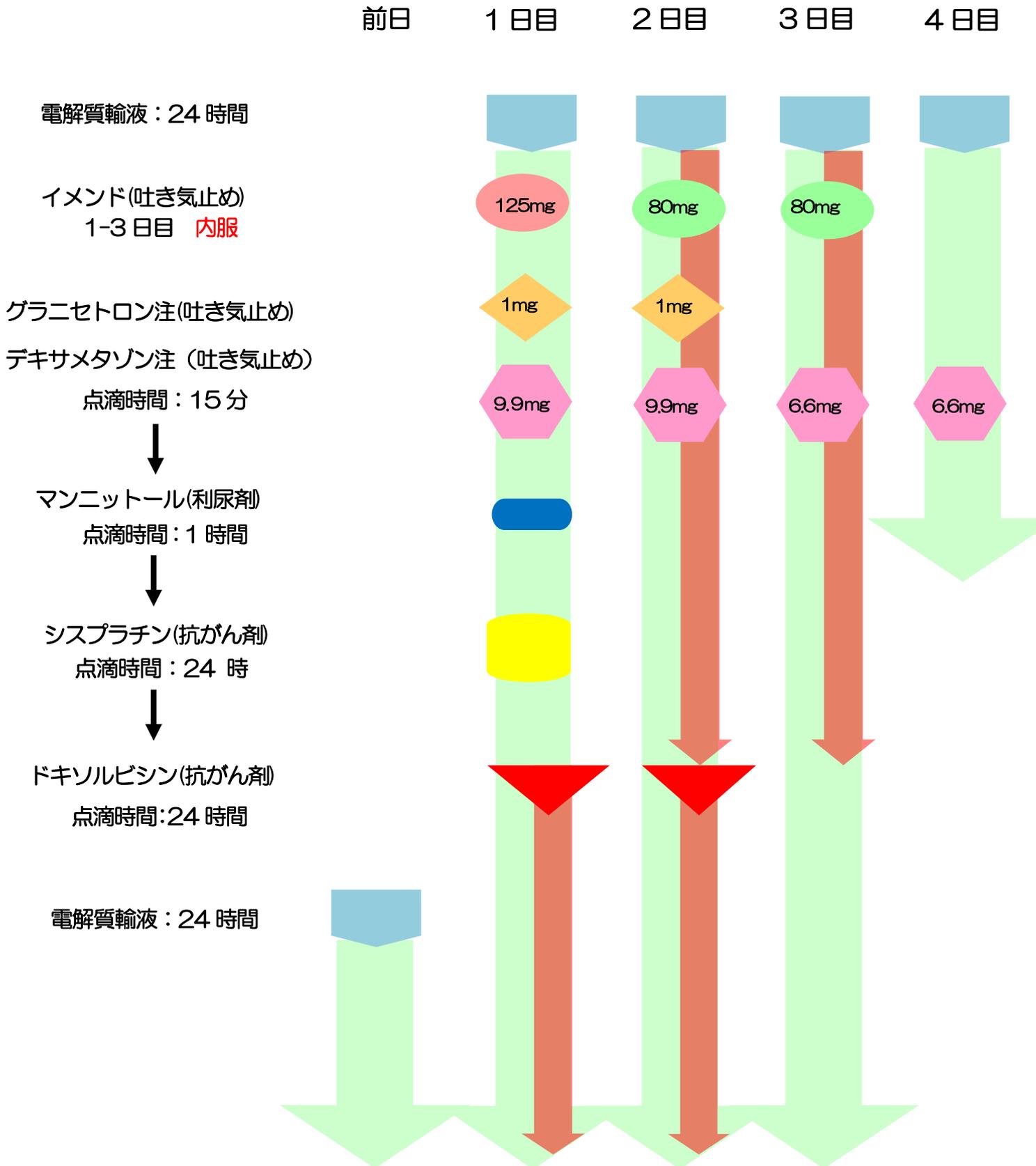
抗がん剤の副作用には個人差があって全ての人に同じように起こるものではありません。薬の種類によってもその特徴が大きく違います。

この小冊子には、AP 療法のスケジュール、使用するお薬などの概要と、起こりうる主な副作用とその対策についてまとめました。

AP 療法によって起こりうる主な副作用の種類、予防法、そしてそれが出現したときのひとまずの対処方法を知ることにより、治療を続けながらより良い日常生活を送れるよう、AP 療法を受けられる皆様にこの小冊子を役立てていただければ幸いです。

方 法

《点滴スケジュール》



電解質輸液は、抗がん剤投与の前日から4日目（正午頃）まで投与して行きます。

注射名：ドキソルビシン注(アドリアシン)



赤色透明

ドキソルビシンは、がん細胞のDNAに入り込み、その成長を止め、死滅させる作用を持つ薬です。

薬の色は、赤色です。注射してから1-2日の間、尿や汗に色（赤色・橙色等）がつくことがあります。元に戻りますのでご心配ありません。

過去に心臓病を患ったことがある方は、事前に医師へご相談ください。

抗がん剤：シスプラチン注（プラチナ製剤）



シスプラチンは、プラチナ(白金)を含む金属化合物です。がん細胞内のDNAと結合することにより、がん細胞の分裂を止め、死滅させる作用があります。

頻度は高くありませんが、シスプラチンの成分が原因と考えられるアレルギー症状が報告されています。息苦しい・発疹が出る・胸が痛い・顔がほてるなどの症状が現れたらすぐにお申し出ください。

《治療スケジュール》

- 薬の投与量は、患者さんの体表面積をもとに決められています。また、年齢や副作用の程度によって投与量を調節することもあります。

全体のスケジュール

コース	1		
週	1	2	3
点滴			

- 通常、3週間を一区切りとして、1週目は点滴投与を行い、2、3週目はお休みとします。これを1コースとして繰り返します。この、スケジュールは血液検査の結果や患者さんの体調によって変わることがあります。



現在、他のくすりを服用されていて、薬の飲み合わせなど、気になることがございましたら医師・薬剤師にご相談下さい。

～必ず服用して頂く内服薬～

《1日目 点滴前の内服薬》



イメンド®カプセル 125mg

吐き気止め



午前中（抗がん剤投与開始 1 時間以上前）に1カプセル服用

《2日目、3日目の内服薬》



イメンド®カプセル 80mg

吐き気止め



朝食後に1カプセルずつ服用 点滴開始翌日から2日間服用

～38℃以上の発熱時に必ず服用して頂く内服薬～



シプロフロキサシン錠 200mg



38℃以上の発熱時に、朝昼夕食後1錠ずつ7日間服用

(熱が下がっても7日間飲み続けて下さい)

(2-3日経っても解熱しない時は病院に連絡してください)

～38℃以上の熱が出てつらい時に飲む内服薬～

(熱が出てもつらくなければ飲む必要はありません)



カロナル®錠 200mg



発熱時の症状をやわらげる。

38℃以上の熱が出てつらい時に2錠ずつ服用する。

(熱が下がったら、飲み続ける必要はありません)

副作用とその対策



AP 療法を行った際の副作用はすべての方に起こるわけではありません。その程度は個人差があります。

以下に主な副作用とその対策についてご紹介いたしますので参考にしてください。

腎機能障害

腎臓は、体の中の老廃物を排泄し、水分のバランスを調節するなど、体を維持するために重要なはたらきをしています。AP 療法では腎臓の働きが悪くなることがあります。腎障害の予防には、たくさんの尿を出すことが重要です。抗がん剤の点滴前後に水分補充のための点滴と利尿剤を使用して、十分な量の尿が出るようにします。頭痛・むくみなどの症状が続く場合にはご連絡ください。

対策

水分を飲んでください。

大量の水分が体の中入ると電解質のバランスが崩れることがあるので、スポーツ飲料なども摂取するとよいでしょう。入院中は、定期的に確認するので発現する可能性は低いですが、ふるえやけいれんなどの症状があればすぐに医療スタッフにお伝えください。



吐き気・嘔吐

AP療法による吐き気や嘔吐が出ることがあります。しかしこの症状が現れた場合は以下の対策を参考にしてください。

対 策 :

吐き気止めの内服薬が処方されている場合は、指示どおりに服用してください。吐き気のコントロールがうまくいかない場合、次回の治療の際に工夫をします。吐き気の程度・吐いた回数・食事の摂取量・排便の状況を、担当医に伝えて下さい。



食事が取れないときは、なるべく水分をとるよう心掛けましょう。(水・フルーツジュース・スポーツ飲料など)。また消化の良い食事を少量ずつ何回にも分けて取られるのも良いでしょう。



また口の中を清潔にしたり、室内の換気を十分にすることで予防することもできます。

趣味を楽しみ、気を紛らわすこともときに効果的です。



下痢

下痢をおこすことがあります。脱水を防ぐために水分の摂取を心掛けて下さい。止痢剤や整腸剤などで対応することも可能です。水っぽい便、熱や腹痛をともなうひどい下痢が続く場合には、病院へ電話して下さい。

便秘

便秘をおこすことがあります。便通を良くするために水分の摂取を心掛けて下さい。下剤を使用する場合があります。便に水分を保ち、排泄を促す作用のある下剤や、大腸を刺激して蠕動を促す作用の下剤などがあります。排便回数、便の性状にあわせて使い分けます。

MEMO ～吐き気と便秘～

吐き気を止めるお薬の一つであるグラニセトロンは、便秘を引き起こすことがあります。便秘は吐き気の原因の一つであり、便秘が続くとさらに辛くなってしまうため、適宜下剤を使用し、定期的に排便が出るようにしましょう。

また、抗がん剤の影響で下痢になってしまうことがあります。うまくお薬で便通をコントロールできない時はご相談ください。

口内炎

口に違和感を感じる方がいます。



対策

： 予防のため、口の中を清潔にし、うるおいを保っておくことが重要です。歯ブラシはやわらかいものを使い、しっかりと歯と歯ぐきをブラッシングしましょう。刺激の強い食べ物や熱すぎる食べ物は避けて下さい。

味覚障害

味の感じ方が変化する方がいます。



対策

： 口内炎と同じように、口の中を清潔にし、うるおいを保っておくことが重要です。治療終了後に回復することが多いですが、長時間持続するケースもみられます。

聴覚障害

シスプラチンの副作用として高音域での難聴と耳鳴りが知られています。進行してしまうと回復しづらく、有効な治療法もありません。早期発見が重要な対策となります。高い音が聞き取りにくい、耳の中にベルが鳴っている等、気になる症状があれば、ご相談ください。

白血球減少

白血球は、体内へ細菌が入り込まないように守っている血液成分の1つです。一般的にくすりを注射してから1～2週間目に白血球の数が少なくなり、3～4週間目で回復してきます。

白血球が減少すると細菌に対する防御能が低下し、感染を起こす可能性があります。感染症はひどくなると生命に危険を及ぼす可能性もあるので、白血球が減っている時期の感染の予防と感染をおこした場

対策：感染症の予防のために、手洗いやうがい、マスクの着用を心がけましょう。

38℃以上の発熱が見られた場合、抗菌薬(シプロフロキサシン錠)を飲み始め、熱が下がった後も、一週間分すべて飲みきってください。抗菌薬を3日間飲み始めても解熱しない場合や、下痢や嘔吐などの症状が重なった場合、速やかに病院までご連絡ください。



血小板減少

血小板は、血液を固まりやすくする働きがあります。血小板の数が少なくなると、出血しやすくなります。

出血傾向がみられる場合は、輸血を行う場合もあります。

対策：けがや転倒の危険がある作業は避けましょう。体を洗う時に強くこするのはやめましょう。トイレの後はやさしく拭きましょう。歯ブラシは毛の柔らかいものを使い、やさしく磨くようにしましょう。

脱毛

くすりを注射してから2～3週間過ぎた頃より、髪の毛が抜けてきます。脱毛時に頭皮がピリピリと痛むことがあります。この脱毛は一時的なもので、全ての注射を終了してから2～3ヶ月で回復し始めます。



対策： 髪の毛が回復してくるまでの間、かつらやスカーフなどをご用意すると良いでしょう。またショートヘアにするなど清潔さを保つことも大切です。

シャンプーは刺激の少ないものを使用しましょう。そして外出の際は直射日光を避けるため帽子をかぶると良いでしょう。



爪の変化

爪が変色したり、時にははがれるなどの変化がみられることがあります。治療が終われば、多くの場合回復いたします。

爪は短く清潔に保ちましょう。爪がはがれる、浸出液が出る、爪周囲が赤くはれて痛みがあるなどの場合には、担当医にご相談下さい。



orange clover

悩んだり、不安になる前に、外見に関するご心配ごとがあれば、**アピアランス支援センター**までご相談ください。 ※オレンジクローバーはアピアランス支援センターのシンボルマークです

その他注意すべき副作用

心毒性

ドキソルビシンには心臓に影響を及ぼす副作用があります。主な症状として、息切れ、動いた時の息苦しさ、胸痛、足のむくみ、頻脈（脈が速くなる）などがあります。

しびれ（末梢神経障害）

シスプラチンの副作用として

しびれを感じる方がいます。症状の出る時期には個人差があります。いったんしびれが出てから軽い症状のままでは推移することもあります。投与を重ねる毎に強くなる場合もあります。



注射部位における皮膚障害

このくすりは、注射の際のわずかな漏れでも皮膚障害を起こすことがあります。



くすりを注射している間に、その注射部位が赤く腫れたり、痛みを感じる場合には、すぐに医師・看護師へお申し出下さい。



監修 国立がん研究センター中央病院 骨軟部腫瘍科

編集 薬剤部

編集協力 骨軟部腫瘍科

看護部

撮影協力 フォトセンター



使用イラストはMPC刊「薬と予防イラスト集」「医療と健康イラスト集」より転載